

第5回渋谷区基本構想等審議会 議事概要

【日時】平成28年3月15日(火)午後3時～午後5時

【場所】渋谷ヒカリエ8階 防災センター会議室

【出席者】■委員(順不同、敬称略)

- ・ 学識経験者 : 市川一宏、伊香賀俊治、乙武洋匡、神長美津子、河原和夫
- ・ 地域団体代表 : 岩田利延、新實晃、福田和男、丸山多喜子、森下利江、リー啓子、渡邊功
- ・ 公募区民 : 越後大作、大西岳之、川邊真代、財津宜史、住井美由紀、吉田翔子

■ 区

- ・ 幹事団 : 澤田副区長
- ・ 事務局 : 久保田企画部長、佐藤企画財政課長、山崎基本構想担当課長
- ・ オブザーバー : 北本英光(株)電通ダイバーシティ・ラボ チーフコミュニケーションデザイナー

【会議公開可否】公開

【傍聴人】7人

【会議次第】1. 基本構想の審議の進め方

2. 審議

(1)基本構想構成

(2)カテゴリの分類案

(3)カテゴリ毎のスローガンの方向性

- ①教育・子育て・生涯学習
- ②福祉
- ③健康・スポーツ
- ④防災・安全、環境・エネルギー
- ⑤まちづくり
- ⑥文化・エンタテインメント
- ⑦産業振興

(4)総合的な「渋谷らしさ」の検討

3. 質疑・次回に向けた連絡等

【事前配布資料】○渋谷区基本構想改定に向けた整理

【当日配布資料】○次第

○子育てアンケートの結果【後半】

○委員からの意見書

1 基本構想の審議の進め方

■事務局

まず、先ほどご案内させていただきました第4回の議事概要を机上に置かせていただいております。この議事概要につきましては、内容をご確認いただきまして、ご発言の内容の趣旨が違うようなものや、もしくは何か修正することがあれば、22日までにご連絡を事務局の方にいただきたいと

存じます。事務局の方で修正させていただきまして、その後、ホームページ上に掲載いたします。また、今回も発言ができなかった場合を想定いたしまして、机上去意見シートをご用意させていただいております。前回の審議会以降でございますけれども、2委員からいただきましたご意見、そして1委員から、ご自身が主催していらっしゃる子育てサロンにおいて実施した子育てに関するアンケート結果の後半部分をいただいておりますので、こちらも含めまして、机上去置かせていただいております。それでは、短い時間で恐縮でございますけれども、前回同様に、アンケート集計の後半部分のご紹介をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

■委員

前回に引き続き、渋谷区内の保護者の174名の皆様にご協力をいただきまして、渋谷区の子育てアンケートの結果を報告したいと思います。前回は、子育て支援の利用率の統計のまとめを実施しましたが、今回は実際に保護者様が感じる渋谷区における子育てのお困りごととか、あったらいいなと感じる子育てのサービスを生のお声をお聞きしまして、項目で分類をしまして、それらを最後に総括として載せさせていただいております。前回の議会で配布いただきました渋谷区まち・ひと・しごと総合戦略という冊子がありまして、そちらの方を拝読させていただきました。冊子の数値と私どもがしましたアンケートの結果から見えてまいりました課題の話をしたと思っています。総合戦略24、25ページにあります、女性の労働力率は上昇しており、特に有配偶者の労働力率が大きく上昇している。そして、女性の従事者数は卸売業・小売業等が最も多いとありました。アンケートを実施しましたら、土日でも利用できるような保育施設の要望がたくさんありました。ほかにも、自営業の人たちの声として、今後、益々女性の労働力率がアップしまして、仕事の多様化も広がるなと思いましたので、安心して預けられるような保育施設の確保や、保育のダイバーシティが必要だと感じました。また、総合戦略の資料の中に、渋谷区の特出生率が10年で0.32ポイント上昇したとなっていて。全国とか都内と比較しますと、少し低い水準で推移しているところもありますが、一方で、回復傾向にあります。アンケートにもありますが、渋谷区の子育て支援が素晴らしいんですね。充実しています。そのような結果が、出生率が少し回復しているような形で結びついてるんじゃないかなと思います。総合戦略の資料では、今後は、区が目指す将来の人口の方向性が33ページにあります、合計特出生率が2025年までに1.34、2040年までには1.8の実現を渋谷区が目指す方向性とありました。このように、出生率を増やしていこうと思えば、アンケートの皆様の声にもありましたように安心して入れる保育園、幼稚園。さらに一時保育のさらなる充実、あと、お子様が遊べる安全な場が少ないというのもありましたので、安全な場の確保、また病児保育の充実。また、まちづくりにおいても車を保持しないような世帯が益々増えるとありますので、駐輪場の整備をお願いできたらいいなと思いました。最後です。詳しくはお配りしたアンケートの最後の総括に示させていただいております。

引き続き、渋谷区で子育てをしたいという世帯が増えますように、この174名の生の声をぜひ参考にして活かしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

■事務局

ありがとうございました。今後もこのような形で、何かご意見をいただきました際には、審議会内

で共有を図りたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 審議

■事務局

それでは、これより平成27年度第5回渋谷区基本構想等審議会を開催いたします。これからの進行は会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

■会長

ではこれより、進行させていただきます。本日の欠席委員は、1委員から連絡をいただいております。会としては半数以上の出席がございますので、有効に成立しております。それでは、只今から、第5回渋谷区基本構想等審議会の議事に入りたいと思います。本日の議事の進め方につきまして、まず簡単に事務局から説明をお願いいたします。

■事務局

これまで3回にわたりまして、6つに分けましたカテゴリ別に、個別のテーマについてご審議いただいております。本日は、これまでの審議を踏まえて、今後の基本構想をまとめていくにあたり、基本的な項目を整理していくことが目的でございます。これまでの議論を集約して文書化するための役割を持ちます小委員会でございますけれども、こちらを先週の8日に開催をいたしまして、小委員会の委員の皆様から、本日の議題の内容についてご意見をいただきました。小委員会の委員の皆様には、感謝を申しあげたいと存じます。その検討の結果を反映したものが、本日の資料となっております。審議の内容でございますが、まず、議題1「基本構想構成」について、議題2「カテゴリの分類案について」、議題3「カテゴリ毎のスローガンの方向性について」、議題4「総合的な『渋谷らしさ』の検討について」という形で、順次ご審議をいただきたいと考えてございます。基本的な流れでございますけれども、議題ごとに、事務局からの配付資料の内容をご説明いたしまして、ご審議をいただく、という形になります。よろしくお願いいたします。説明は以上でございます。

(1) 基本構想構成

■会長

それでは審議に入りたいともいます。まず議題1の「基本構想構成」について、事務局より説明をお願いします。

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想改定に向けた整理」の「1. 基本構想構成」を説明)

■会長

ありがとうございました。只今の説明は、まず基本構想の全体の構成がどういったことかということで6項目でした。最も重要なのは、3番にある基本構想の理念ですけれども、こういったものを含めてこれから作っていくというストラクチャーですね。これにつきまして、何かご意見、ご質問あり

ますでしょうか。本当は、1回目に出すテーマのものです。今頃でたって別にいいんですけども。皆さんの合意が出されればということです。また何かありましたら、戻ります。

(2) カテゴリ分類案

■会長

引き続きまして、それでは議題2のカテゴリの分類案についての説明をお願いいたします。

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想改定に向けた整理」の「2. カテゴリ分類案」を説明)

■会長

ありがとうございました。ちょっと補足いたしますと、今までの議論の中で、個別テーマに基づいて、まず区のほうから過去に何をやったと、今後どうなるかということについて個別テーマがありました。もちろんそれは前提なんですけれども、今やっている作業は、今日前段でありましたように、今後20年を見据えた20年後の渋谷区に向かっての提案を考えるわけですから、その時に個別テーマという話はあるとしても、そのバックグラウンドはなんなんだと考えていくと、カテゴリ分類案の図にありますように、背景として国際化があるだろうと。それから、共助やサステナビリティがあるだろうと。当然これから20年経てば、日本は世界トップレベルの技術を持ってますから、ICT、あるいはテクノロジーが変わるだろうと。これはもう背景として存在するだろうと。さらに、渋谷区として特徴的なのは、今回の「ダイバーシティ&インクルージョン」で、個別のテーマで7カテゴリ全部にかかっているだろうということで組み合わせをしたと。つまり、背景は7カテゴリ全部にこれからかかってくると。当然ですけれども、すべてのテーマに国際化はかかってくるわけですね。それから、あと個別テーマの中でのダイバーシティやインクルージョンは、いろんな人の尊重を含めたものは全部入ってくると考えられるので、くくり直しました。最後に行った作業は、個別テーマの中で3つくらいのグループになるんじゃないかというのがカテゴリ分類案の図にあります。1つ目は、暮らしやすさを向上させるためというくくりで、例えば区民生活の暮らしやすさの視点でいうと、「教育、子育て、生涯学習」「福祉」「健康、スポーツ」が入るんだと。2つ目はまちの魅力と誇りを育むためになると、「防災・安全、環境・エネルギー」「まちづくり」で、外来者も含めて、協働型まちづくりになるだろうと。3つ目のグループが、「文化・エンタテインメント」「産業振興」で、明らかにこれからの渋谷区の何かを作る発信するテーマですから、未来に向けた発信のためにということで、未来の戦略的な視点であるというふうに考えられるなど。

今までの数回行われたこの審議会の議論をこういう形でまとめてみたということでございます。このご提案につきまして、ぜひ皆さまのご意見をお伺いしたいということでございます。よろしく申し上げます。

■委員

5つ目の「まちづくり」なんですけれども、もちろん言わんとしているところは理解できるんですが、基本的に「まちづくり」という言葉を聞いてしまうと、すべてのカテゴリにかかっているような概念だと理解する人もわりと一定程度出てきてしまうのかなと。例えば、他の自治体さんなんかでもよくあると思うんですけど、「福祉のまちづくり」とか、「防災のまちづくり」とか、そういう言葉もよく耳にするように、カテゴリの中の1個とすると、これなんだっけっていうふうになんかちょっとクエスチョンマークが浮かんでしまわないかなというのが懸念として感じました。もう少しこのカテゴリが何をすることなのかを抽出していただきたいです。住民交流と都市計画の2本立てにするとか、言葉はともかくですけども、ちょっとぼんやりし過ぎて、このマルの中身がなんなのかなということが分かりづらいかないという印象を受けました。以上です。

■会長

ありがとうございます。何か委員、ございますか。

■委員

ネーミングを変えるとかあるかもしれない。

■会長

これは例えば、最も有名な1つのロンドンプランなんかでは、スペーシャルプランニングという言葉を使っていて、戦略的な空間形成みたいです。ちょっと言葉の意味が大きくなるけど、もちろんその中には住民も入ってくるけど、「まちづくり」という古い名前じゃなくて、意識を持って何かを作るということを空間形成するということだと思うんです。だから、非常に貴重なご意見だと思います。これも是非。よろしいですか。はい、お願いします。

■委員

委員の「まちづくり」の定義に関する懸念についての意見なんですけれども、共感するところがありまして、この「防災・安全、環境・エネルギー」のカテゴリと「まちづくり」がどういうところにつながってくるのか、これで1つのプロジェクトとしてどういうことが作れるのかと思った時に、「防災・安全、環境・エネルギー」を実現するために、共助とかコミュニティづくりが必要で、そのコミュニティごとにエリアのどんなバリューを作るかみたいなことなのかなと、このカテゴリを見て思っていたんですね。だから、名前をスペーシャルプランニングとか言うとなんかちょっとぼくっとしちゃうので、むしろ渋谷のそれぞれのエリアの価値というか、エリアバリュー、エリアマネジメント、エリアデザインみたいな名前のほうが、スペースとまちづくりの両方に介入したような言葉になるんじゃないかなと思いました。

■会長

ありがとうございます。はい、お願いします。

■委員

「文化・エンタテインメント」のカテゴリの「エンタテインメント」は今回おそらく初めて出てきた言葉で、「文化」について審議をした時にも出てきてない言葉だと思うんですけども。この「エンタテインメント」というのは、おそらく「スポーツ」「まちづくり」「産業振興」にも入ってきてしまう。この「エンタテインメント」というのは、文化のどの部分で、どういう表現の「エンタテインメント」になってくるのかをちょっと教えていただきたい。

■会長

事務局から説明ありますか。

■事務局

はい。この「文化・エンタテインメント」というのは、例えばアーティストがさまざまところから集まってきて、そこから発せられるのは、文化の発祥となる要素である場づくりをするとか、まちづくりをするんですけど、それがさらにエンタテインメントになり、観光資源になることで、いわゆる豊かなまちとしての活性化といいますか、そういったものを支えるという意味合いでつながりがあるという形で考えておりました。

■委員

どっちかって言うと、文化系の「エンタテインメント」を指しているのか。例えば、スポーツで言い換えると、サッカースタジオつくると、そこにはアスリートが来て、スポーツする人が集まってっというのもおそらくそれエンタテインメントになってくると思うので、そういうのも「エンタテインメント」には入ってくる。それと、事務局から先ほど説明いただいた「文化・エンタテインメント」は、コンサートとか音楽といった文化系の「エンタテインメント」に限定した表現なのか。それとも各産業において新しいものを渋谷から発することでそこに人が集まるっというのを、どう集めてこうかっていうのを検討する「エンタテインメント」なのかを分かりやすくしたほうがとか、初めて出た言葉だったので難しいかなという意味で質問しました。

■会長

大抵、カタカナを使うとそういう議論になるから気を付けたほうがいいってご意見はよくあることで、ここで言っているのは、さっきあった渋谷文化、渋谷カルチャーですね。だから、「渋谷カルチャー」を言っているはずで、エンタテインメントってあまり広い言葉使うと、今おっしゃったような疑問が出ますので、これはぜひ事務局のほうでお考えいただきたい。

■事務局

分かりました。

■会長

少なくとも、ニューヨークに行ったらミュージカルがあって、イコールブロードウェイみたいな代表的なものがある。じゃあ渋谷カルチャーを表す代表的なものはなんなんだみたいなことを言って

いるはずなので、その中身を考えていただきたいということで、定義をお願いいたします。ありがとうございます。

他にどなたかいかがでしょう。流れとしては、カテゴリが、第四回目の審議会までは6つだったのが、今回7つに増えたんですけど、その全体を包含するものが国際化だとか、共助だとか、ICTだとか、さらにすべての分野において「ダイバーシティ&インクルージョン」を含むというふうに変えましたので、この考え方がよろしいかどうかについては是非確認したいと思います。

■委員

「まちづくり」のところで、「まちづくり」の定義に関する懸念について委員からもあったんですけど、私は会長がおっしゃられた、スペースについての意見ですね。都市空間として、渋谷は本当に世界の中でも非常に空間的に特徴のある街ですので、そこはやっぱり強調してもいいのかなという気がするわけです。例えば、坂が多いという地形の繁華街は、たぶんニューヨークでもロンドンでもなくて、渋谷だけですし、また三角路地を作りますので、辻ができて、路地ができる。これもまた、渋谷の非常に豊かな空間構成の大きな要素になっています。でも、逆に坂が多いので、いざという時に帰宅困難者が全部駅に集まって、防災上では非常に危ない街であるといったことが、いろいろありましてですね。つまり、まちづくりと言っても、福祉まちづくりとか、包括したまちづくりというよりは、空間にスポットを当てる部分も、非常に大切な要素だなというふうに思ったものですから、ちょっとあえて発言しました。

■会長

この辺りはぜひもう1回言葉を練って、意図が伝わる中身なりがあるといいですね。他はなんかございますか、他の分野でもなんかあれば。はい、お願いいたします。

■委員

このカテゴリの中に、渋谷に住んで幸せだなとか、愛とかそういう抽象的なものがないかなと。ずっと私も渋谷に住んでいて、渋谷で育って良かったなって思っていたんで、そういうことって表現できないのかなって思いました。渋谷に住むと幸せだよとか、そういう気持ち。

■会長

例えば、このカテゴリの中でどれに1番、渋谷に住んで良かったと思っているっていうのが入っていますか。

■委員

福祉と子育てです。渋谷区で、子供を育てて良かったなと思っていますので。

■会長

おそらくアウトプットですよ、それ。カテゴリがベースになって、その結果、人々が幸せになるとか、愛を感じるっていうのがアウトプットになると思うので、きっとこの後のバージョンで出て

きます。

■委員

そうですか。分かりました。

■会長

人によっては、素晴らしい都市空間見て幸せになるかもしれないし、人々が幸せになるとか、愛を感じるものは、人それぞれなので、スポーツする方はスポーツやって幸せと思うかもしれないのでね。アウトプットとしては、すべてが愛だとか、その辺りを表現できればと思います。

■委員

はい、分かりました。

■会長

大体この方向でまとめているんですけど、よろしゅうございますかね。また、もちろんこのあとの展開を見ながら修正していきますけど、まずはこういう形でまとめをしていくということになります。ありがとうございます。それでは、この流れで作業を進めて、若干の微修正等出ましたので、もちろん中身は精査する必要がありますが。

それではつづきまして、議題3のカテゴリ毎のスローガンの方向性についての審議に入りたいと思います。まず1番目の「教育、子育て、生涯学習」について、事務局より説明をお願いいたします。

(3) カテゴリ毎のスローガンの方向性

①教育・子育て・生涯学習

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想改定に向けた整理」の「3. カテゴリ分類案 教育・子育て・生涯学習×渋谷らしい価値観」を説明)

■会長

ありがとうございました。これカテゴリ全部で7つあるんですけども、まとめ方は左側に審議会の議論が要約されていると。右のほうに小委員会での意見があると。そして、真ん中で重点項目として未来に向けて渋谷が戦略的に狙う方針案、ここがポイントですね。そして最後に、積極的な戦略領域ではないけれども、渋谷区として継続が必要だと思うという形で書いていると。特にこの右の重点項目、ここが今回の定義だと。一応、7つありますので、1つカテゴリにつき10分くらいで、計70分しっかり、時間がある限りやりますけれども、是非ご意見いただければと思いますので、よろしくをお願いします。

■委員

ネウボラという言葉がありまして、フィンランドでは妊娠、出産から6歳までずっとネウボラおばさんという人に相談をすると、必要な支援をしてもらえるとというものがありまして、ぜひ渋谷区で

もそんなずっと切れ目のない、継続して受けられるような総合支援をしていただけたらなと思います。

■会長

はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

■委員

「教育、子育て、生涯学習」ということをひっくるめまして、個々のお話もございましたが、全体的に幼児から高齢者まで全部に「教育、子育て、生涯学習」が含まれるかと思います。それはなんのための教育か、子育てか、生涯学習かということをもとにおきまして、結局は1人1人が幸せになるための教育であり、子育てであり、生涯学習である、そういう根本的な考えが1人1人を幸せに、1人も置き去りにしない、そういう思いで取り組んでいくということが大事かなと思います。

■会長

ありがとうございます。今の辺り、この目的は何かをはっきりするという。はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

■委員

ずっとここ1年くらいフリースクールを義務教育の中に位置づけるかどうかという議論を国政でやっていて、一時期は義務教育の中に位置づけようという方が優勢で、その方向で進んでいたんですが、昨日だか今日のニュースを見ると、土壇場で逆転になりまして、いったんは見送るという方向になったようなんですね。こここそ、渋谷区の出番かなと思ってまして、同性パートナーシップ条例を作ったように、じゃあそこ渋谷区やりますよと。フリースクールを義務教育と区で設定するわけにはいかないと思うんですけども、公教育の一環として位置付けますということで、予算をつけてしまうというふうに、全国に先駆けた事例をバーンと打ち出すということは、ダイバーシティ&インクルージョンの「教育、子育て、生涯学習」ということのすごく大きな柱になってくるのかなと思います。是非、かけ合わせのところでの、「ダイバーシティ&インクルージョン」ということが入ってくるなら、この辺りは強く押し出してもいいのかなと思いました。

■会長

一応、重点項目の中にフリースクールの活性化と支援と入っていますよね。これをより明確にと。はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

■委員

細かい話になるかもしれませんが、私は、子供の才能っていうと、才能を伸ばすのか、持っているものを要するに可能性を引き出すのかっていう、見る視点が違うと思うんですね。これからの人材育成っていうのは、子供たちが持っているものをいかに引き出して、人材として活性化してかかっていう視点からすると、才能を伸ばすというのは価値あるものを与えてどうにか引き上げていこう

と見えるんですが、良さや可能性をいかに引き出すかとか、それを伸ばすかというような視点が色濃く出るということが大事かなと思います。

■会長

重点項目に書いてある、未来を見据え、子供の才能を伸ばす子育て・教育、の表現が何か、足りないということでしょうか。

■委員

いや。その才能という見方が、子供は皆才能を持っているし、それをいかに豊かにしていくかという視点が欲しいなと思いました。

■会長

皆、子供は才能を持っているんですね。

■委員

良さや可能性を持っているという。才能っていう一定のものではなく、力を持っているという言い方のほうがいいのかも知れませんが。

■会長

言葉の問題ですね。

■委員

はい。

■会長

これも検討をお願いします。

■事務局

分かりました。ありがとうございます。

■会長

大体、このカテゴリについてはよろしいですかね。はい、お願いします。

■委員

「教育、子育て、生涯教育」と、おそらくここには20歳の青年をどう育てるかということが書いてありますが、0歳から今後20年の間にどのように子供達が育っていくかについて渋谷の特徴として掲げるとしたら、渋谷に生まれ育った子供達は全員が愛情を持って育つという意気込みのようなものが表れるものにしていただきたいと思っています。私達は0歳児から中学校まで学校医として

子供の成長を見ているわけですが、愛情の注がれているお子さん達を、食育や先ほど委員が仰っておられたような可能性も含めて、温かく周囲が見守りながら育て上げていくという意識が表われていくとありがたいと思いました。

②福祉

■会長

ありがとうございました。それでは続いて、2番目の福祉の説明に行きます。説明をお願いします。

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想改定に向けた整理」の「3. カテゴリ分類案 福祉×渋谷らしい価値観」を説明)

■会長

ありがとうございました。重点項目で書いてあるおそらく目玉としては、「共助ネットワーク」。民間のノウハウも活用すると。それを踏まえてコミュニティデザイン、さらには地域包括ケアシステムをとということをおっしゃっていました。これが目玉かなという印象です。では、委員の方々からご意見をお願いします。

■委員

細かい話で恐縮なんですけれども、重点項目の2番目の福祉の潜在価値というのが、具体的に何を話しているのかというのが見えにくいので、例えば福祉を起点にしたビジネスを大きくしたいという思いがあるなら、そういうふうに明確に書いたほうがいいのかと思いました。以上です。

■会長

これは事務局から説明をお願いしたい。ちょっと分からなかったので、福祉の潜在価値ってなんなのかっていうこと。

■事務局

非常に難しい表現だったかなと思っております。いわば、もともと福祉という視点で見ると、潜在価値というのはなかなか見えてこないものであるので、さまざまな要素から提示しながら、そこに見えないものを可視化する、それが意識変革につながっていくというような、感じでこちらに書かせていただいたところがございます。ちょっと分かりづらい表現ですね。この辺はもう少し明確な表現をしていく形で進めていきたいと考えております。

■会長

産業だけじゃなくて、いろんなことが福祉から始まるんだということを言いたいんだ。

■事務局

そうなんです。そういった考えなんです、ちょっと分かりづらいですね、この一言だけでは。その点は、私どももまた改めて考えてみたいと思います。

■会長

他にいかがですか。はい、お願いします。

■委員

重点項目の孤独防止のための地域ネットワークの構築というところなんですけれども、私、恵比寿のほうで、子供食堂っていうのをやって、要は孤独な子供を集めて食事をしましょうっていう活動をしています。そういう活動をしてくれる団体がたくさんあって、構築というより支援とか、応援するパワーって行政だけじゃないので、応援しますよっていうのを表記して、地域のNPOとか、お節介焼きのおばさんとかを、もっと盛り上げさせるみたいな感じで。構築という表現よりは、応援しますよとかそういう表現も入れていただけると、もっと盛り上がりが見えるかなと思って、はい、以上です。

■会長

ありがとうございます。他にどなたかいかがでしょうか。重点項目は2つしかないんですか。もっとあるんですか。これだと寂しそうだっていうか、もうちょっとあってもいいんじゃないですかね。

■事務局

はい。考えてみたいと思います。

■委員

福祉ってシートにも書いてるように、高齢者から始まって、子供のところまであります。実は高齢者の中でもいろいろありまして、非常に幅広いところもあるのが難しいところなんです、この重点項目の中の1番目についてです。先ほど、重点項目の2番目の福祉の潜在価値についてもどういう意味かというご質問がありましたが、私の立場から見ると、1番の民間企業のノウハウも活用して、「共助ネットワーク」の開発を目的としたコミュニティデザインの提示とありますが、実際どういったものを全体的に福祉として作り上げていくのかというのが、重点項目としては分かりにくい。何を総合的に「福祉×渋谷らしい価値観」を構築していくのかというのをもう少し目に見えるような形で重点項目あげていただいた方がいいかなと思います。

■会長

何かありますか、事務局から。

■事務局

そうですね。抽象的な形であるところでございます。地域包括ケアシステムは、基本的に非常に重

要な課題として認識しておりまして、今後高齢者から子供も含めたネットワークを構築するということが非常に大きな課題であるということは捉えております。ただ、それだけだとなかなか個別にどうやっていくのかっていうのが見えにくいんですが、ここは大きなビジョンというふうな捉え方でございます。さらに、委員がおっしゃられるように、もう少し明確な政策につなげていくということは、今後、議論の中で長期基本計画の中身として語られていくと、より具体的な形になるのかなと思っております。ただ、表現については、ご意見を踏まえまして、もう少し分かりやすいものにしてまいりたいと考えております。

■会長

文章が、「共助ネットワーク」の開発を目的としたと書いてあるので、「共助ネットワーク」って何だって話になるに決まってるから、そこの言い方をね。

■事務局

分かります。ありがとうございます。

■委員

福祉という言葉が、そもそも語感としてお年寄りとか、何かして差し上げるみたいなイメージがずっと残っていてですね。私は、お年寄りや障害者の方々が、もっと能動的に生きやすい社会というか、そういう街のほうが渋谷らしいっていう感じもするんですよ。例えば、笹塚とか初台なんかの商店街なんか、お年寄りの方は引きこもらないで安心して歩いて出掛けられると。そのためには、休憩のベンチが必要だったり、いろんな声をかけるような共助のネットワークみたいなものが必要なのかも知れませんが、渋谷には公園や緑もまだまだありますし、もう少し能動的なお年寄りなっても渋谷に生きていて良かったと。先ほど委員が言われたように、渋谷好きよというふうな福祉という語感をちょっと超えた形の障害者の方や高齢者の方々が生きられる社会づくりという、そんな観点があるといいなと思いました。

■会長

非常に良いご意見。定義していただいて、ありがとうございます。他いかがでしょうか。よろしゅうございますか。ありがとうございました。

③健康・スポーツ

■会長

それではつづきまして、3番目の「健康・スポーツ」の説明をお願いいたします。

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想改定に向けた整理」の「3. カテゴリ分類案 健康・スポーツ×渋谷らしい価値観」を説明)

■会長

ありがとうございました。「健康・スポーツ」というか、当たり前だけど重要なテーマを取り上げていますので、これはかなりいろんな分野にかかわる話なんですけれども、スポーツと渋谷区というこの関係は是非議論しておきたいということである。これにつきましてぜひ委員の皆さん、お願いいたします。

■委員

11 ページの審議会議論の主な意見のところに、子供の時の運動習慣と食事の習慣が生涯残るということで、子供の時を出発点にしているんですが、妊娠した時からを出発点にしたほうが良いと思うんですね。というのは、妊婦で栄養状態が悪いとか、過度なダイエットをしていると、産まれてくる子供が将来生活習慣病になるリスクが高いと報告がありますので、妊娠中のところから出発点にすれば、母子検診とか乳幼児健診につながってくると思います。あと、まちづくりにも関係しますが、タバコの問題が抜けているような感じがするわけです。それから語句のことになりますが、スポーツは介護予防と密接と書いていますけど、スポーツという表現だと、スポーツウェアに着替えて非常にやるのがおっくうになるような感じもしますので、軽くできるような運動習慣とかそういう表現にしたほうが、より親しみがあるような感じがいたします。以上です。

■会長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。はい、お願いします。

■委員

重点項目のところで、子供向けの項目としてスポーツセンター改修等とあるんですけども、審議でもあった心のバリアフリーっていうところで、パラリンピックを契機に、スポーツセンターを改修するっていうよりは、小学校をどんどん開放するほうが、よっぽどいいと思います。施設の整備っていうよりは、既存の学校といった施設の活用をすると、渋谷ってすごい交通の便がいいからこそ、パラリンピックの人が来やすっていう部分もあると思うんですね。もっと公共施設の開放や利用をしたり、パラリンピックの選手を学校で練習させて、それを子供が見るといったことが心のバリアフリーにつながるかなと思って、重点項目の4番のところに補足説明を加えるか、スポーツセンター改修っていうのは分かるんですけど目的がずれちゃうかなというのがあって、もっと子供に心のバリアフリーというものがどんなことか伝わるように、視点が変わって、心のバリアフリーが生

まれるっていうふうに作っていただきたいなというふうに思いました。

■会長

ありがとうございました。

■委員

子育てアンケートで、皆さまもご存知のとおりやはり渋谷区は子供の遊ぶスペースというか、環境が少ないんですね。それで、子育てアンケートのお母さまの意見にもあるんですが、渋谷区は運動能力が低いという結果になってしまっているんですね。他の区とか市の児童と比べても、運動能力が劣っているのは納得ですというような意見があったりします。公園でボールで遊べる場所がほとんど実はないような状態ですね。やると怒られるんですね。うちの子も、両方ともスポーツがすごく好きなんですが、そういう場がなかったのも、ちょっと残念だったなと思います。ぜひ、室内の環境と屋外の環境を整備していただくと、スポーツの発展になる。

■会長

なんとなくスポーツ全体の施設の環境が入っていない話ね。それに入るような。

■事務局

はい。

■委員

はい、お願いします。

■会長

他、いかがでしょうか。

■委員

「健康・スポーツ」っていうところが1番渋谷らしいっていうところがアピールできそうな大事な部分だなと改めて思いました。やはり気持ちよく歩けるような坂、坂のある渋谷の話もありますし、結局知らず知らずに体を動かすことが疾病予防、介護予防につながる。たぶん能動的な部分を言っているのかなと。先ほど委員がおっしゃった、福祉のところでもう少しポジティブにっていうのは、むしろこの「健康・スポーツ」のところポジティブで、でも、それでも最後はきちんとケアをしないといけない方々が最後は発生するので、そこは福祉できちんと受け止めるというような、「健康・スポーツ」と「福祉」というのは少し一体的に考えれば、すっきりするのかなと思いました。以上です。

■会長

じゃあ委員、お願いします。

■委員

この分野あんまり専門じゃないのですが、突飛なアイデアかなと思ったんですが、1番最初にこの部会に出席させていただいて、この「健康・スポーツ」のところから渋谷らしいって価値が出せるってことの一つに、この渋谷に住むと1年寿命が伸びますよとかいうスローガンってすごく面白い、分かりやすいなと思っていて、それで渋谷らしい取り組みとして何ができるかなと思った時、やっぱりこのICTを使ってやれるというのが渋谷らしいんじゃないかなと私は思っています。例えば、突飛な考えなんですけど、渋谷区民の方に万歩計みたいな、ネットワークで今日は何歩歩いたってというのが、ポイントとして可視化できるようなものになっていて、それが街の中で常に流動的に歩くことを目的とした人たちが一定量いるってことが価値に変わるようなものがあれば、それはパトロールしていることでもあるし、もちろん自分の健康維持のためにもなっているんですけど、その人たちが何かを運んだり、例えば何かの雨のデータをすごく細かくデータをあげたりとか、知らず知らずのうちに健康を増進しているということじゃなくて、楽しみながら結局できてるみたいなところまでいくと、渋谷らしくて面白い積極的な取り組みができるんじゃないかなと思います。

■会長

ありがとうございました。今の話は結構中身というか、コンテンツをどこまでかけるかにかかってきますね。

■委員

「健康・スポーツ」というくくりになっていますが、先ほど委員も仰っていましたように、スポーツというと特殊という感覚があるかと思います。運動習慣をつけるということは、メタボ対策にも非常に重要なことで、健康を作り上げるという意味でも運動習慣を持つことが大切だと思います。ですからそういう意味合いが入るといいと思います。

どのように運動習慣をつけるかに関しては、インセンティブ、例えばポイント制にするだとかがありますが、そういうものを使うと若い人は割合に乗ってきそうな意識があります、

子供に関しては、例えば投げる力、持久力的な力は実際のスポーツテストで能力が落ちてきています。この何年か間に公園でボールを投げるのが禁止、だから野球が禁止されていたことに関係があるかとも思えます。そういう場がなくなることで、いざスポーツテストをすると、10年前、20年前の子供達と比べてその能力が落ちることが起こっています。また今小学校の教育の場で体育の時間が以前よりだいぶ減ってきています。幼稚園ではある程度外で遊ぶ時間がありますが、渋谷区では小学校、中学校でできればもう少し体育の時間を増やしてほしいと思います。また、子供達が高齢者を引っ張ってどこかに歩かせるようなボランティアと、子供と高齢者をうまく結びつけるような運動習慣の作り方を提案できるといいと思います。

■会長

ありがとうございました。あと、まだいっぱいテーマあるので、一応ここで。また時間があつたらとりますので。

④防災・安全、環境・エネルギー

■会長

続きまして、「防災・安全、環境・エネルギー」の説明をお願いいたします。

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想改定に向けた整理」の「3. カテゴリ分類案 防災・安全、環境・エネルギー×渋谷らしい価値観」を説明)

■会長

ありがとうございました。これはいろいろ議論していく中で、防災も安全も環境・エネルギーも、かなりまちづくりと絡んでるなというご意見は小委員会でもありましたので、テーマは違うけど、同じグループにしています。つきまして、ご意見はございますか。結構いっぱいあって、ふわっと集めちゃったみたいな感じになってます。おおむね都市計画で対応してるテーマなので、あとで出てくるまちづくりにもかかわってくるということはあるんですけども。ただ、この話はかなり共助というか、区民がどのくらい協力し合えるかというのが整理を左右するので、共助社会という中では結構大きなテーマになります。ですから、ハードだけじゃないソフト系ですね。それをここで強調するというのがポイントだと思います。

■委員

防災の議論の時には、発災時という問題と、要するに災害が起こる前と後の議論がとても大事で、発災時は自分の命を守ることを優先させてください、釜石方式でですね。そうしませんと、生き残れませんので、大事なのは自分の命を守りやっていく。その訓練というのが極めて必要です。もう一方、発災の前については、地域でどう支えていくのかと、その災害弱者をどうしていいのかというのが一つ大きなテーマですし、こうして発災でいろんな議論が出てきた時に、体制の問題とかさまざまな具体的な議論をしておくことが必要です。それはまちづくりでくくれると思います。遠くから、助けに行くというのはなかなか難しいので、まずは目の前にいる被災者を救い出す、できるだけ早く。そして、守っていくというようなことをしていきませんと、発災後どうしていくのか刻々と変わりますので、そこら辺のシミュレーションが私は不可欠だと思うので、町会等々を軸にしながらでも、少し検討しておいたほうがよろしいかと思います。

それから、一気に人が来ますから、災害ボランティアとして。ちゃんと受け止める仕組みがないと大混乱になるんですね。ボランティアに来ていただくのはいいけれども、どこで受けるかということも、この中では一応、念頭においてください。たぶん発災時には飯田橋に災害ボランティアセンターが立ち上がると思うんですね、東京都社会福祉協議会のボランティアセンターのところに。そこを拠点にするのか、ブロックでするのかというような、少し具体的な議論をして、少なくとも皆さん動きやすいようにしておかないと、実際被災しているとなかなか動けません。外から来た人とどう協働するかが課題になるので、そこら辺はもうちょっと具体的に議論を進めておかないと、いざという時には使えないというふうに思いますので、お伝えしたいと思います。

■会長

ありがとうございました。他にどなたかご意見を。

■委員

先ほどいただいた話で、広尾のほうの町会で、特に防災のリーダーがすごいんです、町会長が特に。広尾でなにかあった時に、どうしようっていうルールづくりは結構していて、その都度、何するか。訓練を、若手も入れて 20 代、30 代も入れて、炊き出しして、最初にお父さん、お母さんに食べさせながら声をかけてっていう訓練をしています。結構この部分で、災害で混乱した時に、大きいリーダーがいて、小さいリーダーがいて、その中にまた細かいリーダーがいながら、お母さんのリーダーがいたりっていうので、本当に緊急時ってその縦のつながりというのがあるが大事です。重点項目の中で、例えば防災リーダーじゃないですけど、各町会なのか、地区なのかっていうのに、しっかりリーダーシップがある方がいらっしやると、すごい安心します。パッと決めてくれたり、あそこ危ないぞとか、消防車、救急車が入れない場所も知っている人たちは知っているんで、その場所に救助に行かなきゃいけないっていう判断がすごいしっかりしているところもあるので、重点項目の中にリーダーを育成するっていうのを防災の一つの人材育成っていう部分で入れていただけるといいかなと思います。

■会長

はい。ありがとうございました。

■委員

最近、私達は自衛隊中央病院と連携しており、教えていただいていますので、先日の土曜日にも訓練に行きました。その時のお話の中で、非常に具体的な話がたくさん出てきて、発災時 3 日間の活動につき私達も想定はしていますが、その際に減災がいかに重要かということを強調されていました。減災のためにどうしたらよいかというと、自助・共助・公助が必要なのですが、ご本人達の防災に対する意識と、その教育を受けているかどうか。私達がこうしようと言っても区民の方たちのご協力がなければできないので、防災教育、特に地区特性を踏まえた防災教育を何らかの形で推進していくような方向をとっていただければいいと思います。

■会長

それは私も同意見で、防災とか環境のところは、区民の意識を変えないといけないと、両方入れる必要があつてね。教育もそうなんですけど、意識を持っていれば、全く行動が違ふし結果が違ふので、防災の場合は極端に出ます。あと、環境・エネルギーのところ、今まではバラバラに考えてたことを一緒に考えるのって分からないので、具体的に環境とかエネルギーについて区民が何を考えればいいのかということ、うまく引引っ張っていくような話を書いてもらおうと分かりやすい。ハードだけじゃなくて、やっぱり意識を変えれば変わるわけですね。そこを是非考えていただきたい。はい、お願いします。

■委員

意識の話が出たので申し上げておきたかったんですけども、このカテゴリの中の環境ですね。特に、阪神・淡路大震災の時に火災があったのですが、減災の能力があったのが公園だったり、樹木だったりとかが大きく抵抗力になりえたということがあって。公園とか樹木は意識して残すように努力しないと、20年くらい経つと本当になくなってしまいますので、20年の構想の中では、渋谷の中の緑とか公園とかの確保というのは意識付けとしてはあった方がいいんじゃないかなって感じがします。重点項目に入ってなかったんで、ちょうど渋谷川の整備が今度行われて樹木を植えて遊歩道ができあがりますけれども、そういうプラスになるようなことを一つ一つ積み上げていくのがとても大切なんじゃないかなと思います。

■会長

これは有名なのが、シンガポールでリー・クアンユーが木を植えるって散々言ったんです。あそこは街路樹いっぱいあるんですね。そうすると、防災上もいいし、実は気温が高くても樹木が多いから収まるんですよ。だから、当然こういうこともあるはずで、環境のことで防災のことを言うのであれば、緑を増やす話をどこに入れるか考える必要があります。まちづくりに全部入れちゃうと、そこが大きくなっちゃうから、こういうところに入れるところを見付けられるっていう作業があると思うんですよ。この辺りは何か委員からありますか。

■委員

「継続する項目」にそのことが書かれているんで、もう少し強調するっていうことでいいかなと思います。

■会長

自然環境と緑の保全・整備のところはもっと積極的に緑を増やすとか、そういうことを。

■委員

先ほどの環境というところで、緑っていう側面のお話があったんですが、実は環境、交通、エネルギーのその環境のもう一つの側面は、省エネを徹底することでCO₂の排出が抑えられて気候変動緩和っていう環境貢献というか、渋谷区としてもきちんとそれをやっていかなきゃいけないということでもあります。「今までバラバラに考えてたことを一緒に考える」っていうこの趣旨は、住宅とかビルの一層の省エネを推進することが、CO₂の削減につながって、環境貢献になりますし、さらに、住んでる人の健康状態が良くなって、疾病予防、介護予防につながる。要は、それを一緒に考えてっていう趣旨の発言でございました。

■会長

ありがとうございます。全部つながっていたと。今言ったいろんな環境のことはかなり「継続する項目」に入っています。ここをちょっと強調するような形で。

■事務局

了解しました。

■会長

時間が来たので、あとでまた追加質問します。

⑤まちづくり

■会長

続いて、「まちづくり」の説明をお願いします。

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想改定に向けた整理」の「3. カテゴリ分類案 まちづくり×渋谷らしい価値観」を説明)

■会長

それでは、さっき「まちづくり」っていう名前もどうだっていう意見もありましたけれども、中身についてあればお願いいたします。

■委員

前のところの「防災・安全」のところにも係るんですけども、重点項目の2つ目にある、ファーストピープル(区民)だけでなく、セカンドピープル、サードピープルが積極的に参加したくなる仕組みづくりっていうポイントは、まちづくりだけでなく、特に防災とか環境美化の意識の話がすごく出てきたと思うんですけど、渋谷区に住んでいない人にどうそういう意識を持ってもらうかというのは、たぶん渋谷区の特性を考えても、すごく大きなポイントだと思うので、そこはこのまちづくりの項目なのか、その手前なのか、もう少し明確に、対象は区民だけじゃなくてというのも書いた方がいいかなと思いました。

■会長

非常にいい意見で、昔、私は東京都で業務をやった時に対象を一応冒頭に出しました。対象は誰なんだ。都民と、そこで働く人と、それから対区外の人、そういう人を対象にやるって初めに入れてやった経緯もあります。だから、今回どうするかは選択ですね。ただ、概ね23区の基本構想ではそこまで大体書いてないというか、大体区民目線です。今回の渋谷はかなり区民目線じゃなくて、少し国際視点を持ってるので、非常にいいご意見で、これをどうするかは、まちづくりに限らないで、全部にかかわってくる。はい、お願いします。

■委員

今週末、北九州のほうにまちづくりリノベーションの講演に参加して、いろんな事例を聞いて面白く、実際に事業化した事例も見てきたんですけども、「まちづくり」っていうことを考える時に大

きく二つあって、渋谷として区民だけじゃなくて、インバウンドの方ももちろん、あと例えば新しく入ってきたマンションのコミュニティにいる方と地域に元々住んでらっしゃる方をどう連携させてまちづくりをしていくか。ひいては、防災面できちんとチームとして動けるような体制を作るかということがすごく大事で、防災の話も少し係ってくると思うんですけど、防災教育が楽しくないと、なかなかマンションの方も参加したり、外の方も参加するっていうのが難しいので、一つ事例として参加した講演会ででてきたアイデアをご紹介します。キャンプみたいに防災訓練を楽しいものにして、発災した3日間はどうやってサバイバルするかっていうのを、皆でキャンプでシミュレーションするみたいなことをまちづくりの一環として小倉でやったらどうかっていう提案もあったりとかして、防災教育を皆で楽しいものにしていくという工夫が必要なんじゃないかなっていうことが1点。あと、インバウンドの話が出てきたと思うんですけども、新聞で見られたかと思うんですが、今後民泊の動きが大変大きくなっていく中で、渋谷はその目玉になってくるので、地域外の人を地域の方がどう受け入れていくかっていう体制をつくるのが急務で、トラブルが起こるとということも想定されるので、その時に地域の人がどういうふう地域をあげて地域外の人を受け入れていくかっていうところを、商工っていうか、商店街ベースでやるのか、防災ベースでやるのか、いろいろあると思うんですけども、地域のチームビルディングっていうところをまちづくりの一つ重要な軸として捉えていく必要があるのかなと考えています。

■会長

確かに防災のまちづくりのことは、極めて区民じゃない人とセットになっていますよね。それをどこで書くかは今後の展開で考えてみたいと思いますけど。他にいかがでございますでしょうか。はい。

■委員

まちづくりの時に、エリアマネジメントっていうイメージがつきにくいですね。エリアをどこに持つとか、圏域なのかが曖昧だと、エリア側も難しい。ダイバーシティは多様性だけれども、多様な人がいればエリアをくくらなくていいのかってそういうわけじゃなくて、地域の特性があるわけで、そこを立脚した視点からエリアマネジメントを組むのかっていうのが議論になると思います。2番目は、コミュニティづくりのコーディネーターの育成。コミュニティづくりのやり方によってはだいぶ違います。たくさんコーディネーターっていう言葉が出ちゃって、今。地域福祉コーディネーターやコミュニティーソーシャルワーカーや生活支援コーディネーターや、もうたくさんあって、それら全部をつけたら渋谷の財政はパンクします。だから、どこが調整してなんなのか、まちづくりの特徴を少し出さないと、曖昧になってしまうというのが2点目です。3点目は、私はまちづくりの時にどこに載せたらいいか分かりませんが、福祉でまちづくりっていう議論もあるんですね。福祉でまちづくりというのは、福祉の産業を活かして、高齢の方が多から、地域で支えられるような産業ができれば、そこで商店街も活性化するし、というような多様な意味を持つ福祉でまちづくりという議論があります。福祉のまちづくりはお互い支え合おうと、共生の議論です。その視点を踏まえて、一応整理しておいた方がいいかなというふうに思いました。以上です。

■会長

はい、ありがとうございました。他にご意見いかがでしょうか。はい、お願いします。

■委員

「まちづくり」というものは、全部が関連しているので一つで表すのは大変難しいことではありません。外から渋谷の「まちづくり」を見たときに、渋谷駅周辺、原宿の街、恵比寿の周辺など駅周辺に対しては、渋谷駅は確か200万人通過すると言われ、昼間人口は夜間人口218,000人の3倍位なので、重点項目に書かれているようなファーストピープルだけでなく、セコンドピープル、サードピープルが積極的に係わるということは理解ができますが、ファーストピープルが置き去られるようなことがあってはならないと考えています。渋谷のまちづくりを景観的にも、機能的にもその場所ごとのエリアデザインとか、地域ごとの特性を育て上げるとか、活性化するとかがあって、それに対応するようにファーストピープルがもちろん中心になるとはいえ、セコンド・サードピープルが助け合い、積極的に参加することにより、中心となる渋谷のまちづくりがそれにより動かされ過ぎてはいけないと思っています。基本的なまちづくりはセコンドやサードピープルのために作るのではなく、あくまでもファーストピープルやかなりのセコンドピープルも入るとは思いますが、この人達の繁栄を考えるのが第一番で、サードピープルが入ることによってそれがぶれてはいけないと思うのです。特に周辺地域でのまちづくりでは基本的なことをファーストピープルが地域毎にしっかりと見据えて、サードピープルに動かされ過ぎず、その人達をうまく取り込むような方法を考えていただきたいと思います。

■会長

ありがとうございました。「まちづくり」って一応我々の専門なので、話しておく、もちろんいろんなまちづくりあるんですけども、ここはちょっと特化していて、世界の中に渋谷があるよみたいなものを出せるような街にするという意識のまちづくり。もちろんハードじゃなくてソフトもあって、その中には福祉もあるかもしれないけど、イメージ的には都市空間をはじめとして、明らかにその都市が存在していて素晴らしいんだよという意味での、地域でいうとハード系から始まるんですけど、それを指しているなというのがまず意識です。その中にはもちろんソフトも入ってくるんですけど、今回分野を7つに分けていますから、分野を削ぎながら「まちづくり」はなんだろうと考える。最終的には一緒になるんですけどね。ということで考えると分かりやすいかなと。そうすると、今言ったように、原宿らしさとか、渋谷らしさとか、恵比寿だとかみんな違うじゃないですか。そういうことがあって分かる話をここですればいいんだというのがここでの意識です。ある意味ちょっと削ぎながら特化させて、そして次の世代に、世界に誇れる渋谷、そのパーツはここにありますみたいな、そんなんじゃないかなと私は思っているんですけどね。これは私の分野での話なんですけど、何か委員ありますか。

■委員

いや、会長が先ほど来おっしゃっていることに同感であります。都市空間とかハードの部分盛り込むのはあとの部分だと思いますし、実際どういう魅力的な空間ができて、歩きやすいとか楽しく

歩けるというのを実際に盛り込むのもやっぱりこの「まちづくり」だと思うんですね。いや、そういう意味でも、まちづくりって言うと少しふわっとした、漠然としたイメージになるので、もう少しネーミングなんかを変えてもいいかもしれないなと思いました。

■会長

ありがとうございます。他にどなたか、よろしいですか。

■委員

そうすると、「まちづくり」は、今の先生のお考えをどういう構成要素ができるのかとかですね。そこら辺をちょっと明らかにしてくださるとすっきりしてくるかなと私は思いました。会長の意見に賛成していますが、そもそもまちづくりはなんですか。それがほかとどう差別化できるかということをはっきりと明かにしていただきたいし、そうすると、いろんな住民が来るといことですね、その場所に。そういった場合のまちづくりの議論が出るということで、住んでいる人というよりも、街に来る人、通過する人という議論になりますか。

■会長

1番簡単なのは、行きたい街になればいいんですけどっていう話なんです、実は。それは何なのかっていう答えを出す必要があると思う。自然発生的になっている都市もあるし、作画的な街もあるけど、渋谷はかなりポテンシャルが高いので、それをさらにバージョンアップするという作業だと思うんです。

⑥文化・エンタテインメント

■会長

はい。いろいろとまだ皆さんからご意見はあると思うんですけど、ちょっと次にまた行きまして、今度は6番目の「文化・エンタテインメント」のほうに、説明をお願いします。

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想改定に向けた整理」の「3. カテゴリ分類案 文化・エンタテインメント×渋谷らしい価値観」を説明)

■会長

先ほど議論があった、エンタテインメントっていうのがどうかっていう議論がありました。それはまたお伺いしまして、この中身につきまして、ご意見いかがでしょうか。

■委員

度々申し上げてすみません。文化っていうと、誰の文化っていうこともある。例えば、高齢者文化っていうのがあると思っていて、障害を持たれている方の文化っていうのもあって、生活の中で生み出される文化もあるだろうなと思います。例えば、伝統的な生活を維持しつつ、新しいものではなく古いものになるかも知れませんが、そこに安定性を求める人もいていいんです。私の例でいうと、携帯変えたんですけど、えらい難しいんですよ。ほとんど機能使ってなくて電話だけしか使っていないけど、それでも、単純なものでもいいから、高齢の方にとっての必要な機能もあるんじゃないかと。だから、新しいものじゃなくて、地域と根ざして作る地域もあるだろうと。「まちづくり」の拠点だから、ここから世界発信するというのは当然あると思うんですけど、じゃなくて生活の中の部分であるんじゃないかということも考えますと、少し広げたほうがいいのかもしれないと思いました。

■会長

ありがとうございました。他にいかがですか。ご意見ございませんか。

■委員

今、渋谷でジャパンファッションウィークのイベントがヒカリエとかでありまして、昨日レセプションがあったんですが、それは六本木で行われたんですね、メルセデス・ベンツファッションウィーク。来賓に稲田知美さんが来られて、クールジャパン担当をされて、パリなんかにも行かれたはずなんですけれども、その時は渋谷109もパリに出張展示行きましたし、ある意味、日本のかわいい文化の大きな資源が渋谷という捉え方を明確にされたなというふうに、生活文化の一つだと思うんですけどもね。それより、私が危機感を覚えているのは、ライブハウスなんかがどんどん減っていて、渋谷が1番音楽ライブなんかのメッカのような状況だったのがどんどん今薄れてるし、それから東京国際映画祭も知らぬ間に渋谷から違うところ行っちゃったりとか、ここもなんかテコ入れしないと徐々に地盤沈下していくんじゃないかなっていうことも実は気にしています。特にインバウンドなんかを意識した時に、文化って大きいテーマで大事なテーマだなというふうに思っています。

■会長

ありがとうございました。他にどなたかいかがでしょうか。今、渋谷で発信しているファッションっていうのは何か特別なものがあるのか。

■委員

そもそもですね、ITOKIN さんとかですかね、それからサンエー・インターナショナルさんとか、要するに大手のアパレル、ファッション産業って渋谷に立地されていますよね、そもそも。だから、通り沿い、代官山もそうですし、もともと文化服装学院があり、いろんな専門学校があり、産学連携した渋谷区でのファッション産業の集積というのが、それは大きな特徴の一つだと思っています。ただ、大手のアパレル産業は、徐々にやっぱり力をなくしつつあるという、そういう危機感はある。

■会長

他にどなたかいかがでしょうか。東京の中には何か所か、そういう独特の文化、サブカルチャーなんだけど持ってる場所あって、それはメインカルチャーに移るかどうかっていう期待はあるんですね。渋谷はサブカルチャーがあって、青山から始まった骨董通りから始まった若者文化とか、表参道を含めた竹の子族もあったし、それから、今はかわいいもあるして、何かあるんですね、渋谷には。こんなに文化があるところは本当に東京の中にないで、これがメインカルチャーになっていけば、区長が言ってるロンドン、パリ、ニューヨーク、渋谷になるんだけど、これは一体何なのかっていう議論はおそらくしていいと思うし、可能性はあると思う。だから、今回のテーマに出てきたのは、ファッションはいいんだけどエンタテインメントがなんとなくまだ、さっきも議論あったんだけど、何を言っているのかわからない。エンタテインメントは何を言っているんですかね。

■事務局

観光資源としてのエンタテインメントということが、さまざまな文化の集積から生まれてくれば、非常にインパクトのある国際化につながっていくというようなイメージです。

■会長

このエンタテインメントの構成要素は何を考えているの。

■事務局

1つは音楽です。これまで渋谷で展開してきたものがあるので、1つベースかなというのは考えておりましたけれども、もっとさまざまなものが出て来ればよりいいかなと考えています。

■会長

今、東京であるサブカルチャーって、漫画があるんですね。漫画って実は東京へ来ても漫画のメッカって場所がないんですよ、秋葉原も違うし。世界ではアニメが有名なんだけど、どこに行けばいいかって場所がないんです。文化っていうのは、そういうことを発信している場所がなきゃ駄目で、さっき言った、ブロードウェイは、行くとももちろんミュージカルの養成学校がいっぱいあって、そこに行けばいいんですよ。パリも同じで、そこに行けばいい。今、東京にはそれがないんですよ。仮に渋谷がサブカルチャーのメッカとするんだったら、メッカとなる場所を作っていく作業は当然いるんです。だから、幸い、渋谷駅にこれからいっぱいビルができるので、どうするかもありますけ

ど、今までの歴史をうまく生かしながらやるっていう方向は、意識を持ってやれば可能性はあると思いますけどね。何か他に。お願いします。

■委員

私の意見というより息子の意見ですが、普通これだけ大きな街ならクラブイベントとかが相当あるかと思います。渋谷はもともと若い人が集まっていて、2020年のオリンピックは目前にあるのですが、その時には海外からの方々がたくさんいらっしゃる。旅行できる人達ですから高齢者よりは若い年齢の方が多い。その場合、昼間にオリンピックを観戦した後、夜の遊びという意味でのクラブ文化とかが当然必要になってくると思います。夜の遊びとしては、さっき会長がお話しされたように、ニューヨークなら何があるかに相当するような渋谷の文化という意味で、音楽であればクラブ文化もそうでしょう。また、他の一つの特徴として能楽をもっているの、いわゆる日本文化の発信という意味でそれらを取り入れることも含め考えるといいかと思います。

■会長

ヒントを言うと、例えば六本木ヒルズなんか年間カレンダー持っていて、常時何のイベントをやっているかわかる、エリアを含めて。エリアマネジメント含め。だから、さっき言った議論で、エリアマネジメントやるんだったら、カルチャーで渋谷一体でやればいいんですよ。それをやるのは東急ですけどね。そういった目玉が必要でね。そういうことをやれば、相乗効果がある、そして発信ができるんですよ。だから、今そういうタイミングにもあると思うので、むしろこういうところははっきり文化として出して、やるぞという気持ちでやるというのがあると思います。

■委員

エンタテインメントにも絡むんですけれども、かつて渋谷公会堂は、コンサートイベントが開けるだけですごいブランド価値があった時代もありました。今、Bunkamuraもあり、オーチャードホールもあり、それから、東京シアターオーブもあり、NHKホールもありで、ある程度楽しむ場というのは渋谷にまあまあ揃っている要素があります。まさに会長が言われたような、横の連携ができていのかって言ったら、本当はないと思います。そこら辺は大きな課題かなというふうに思います。以上です。

■委員

エンタテインメントで、せっかくライブハウスの話が出ていたんですけど、ライブハウスがつぶれちゃったのは風営法とかの問題で、2年前くらいからかなり軒並みつぶれています。今年の6月に改正があるのでまたちょっと盛り上がってきているんですけど、照明の明るさとかの規制があったり、遊ぼうとしてもビジネス的にグレーで遊ばせているっていうところがあるので、そこら辺の規制とかももう一度考えないと、逆にそういうふうにならないんじゃないかなと思っています。また、先ほど、大きいイベントやればいいじゃないかって言ったんですけど、2年前のワールドカップの時だったか、ソニーとアディダスとバドワイザーで1億ずつくらい出して、渋谷の駅前でワールドカップのイベントやりたいって言って、前区長に僕が話に行って、前区長はいいよって言ったので、

警察に言ったんですよ。そうしたら、事故起きたらどうするんだって言われたんで、今回もやろうとしてもできないんだなと思ったんです。だから、やろうと思っても、なかなかいろんな規制や大人の事情があってできないっていうのに僕は最近、ちょっと前もずっと感じていて、せっかく皆さんこうやって議論しているのに、そういった事情でまたできなくなる心配や、イベントをするのにどうすればいいのかなってちょっと思っちゃいました。以上です。

■会長

ありがとうございました。まず初めにコンテンツを考えて、次にどうするか。スキーム的には、今特区も始まっていますから。

⑦産業振興

■会長

それでは、次の7番目の「産業振興」の説明をお願いいたします。

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想改定に向けた整理」の「3. カテゴリ分類案 産業振興×渋谷らしい価値観」を説明)

■会長

ありがとうございました。実は、産業だから全部かかるんですけどね。かかっていますけど、その中で何が目玉かを書いている。何かありましたら、ぜひお願いします。

■委員

継続する項目の中で、中小企業の振興って出ていますよね。例えば商店街が壊れると街は壊れます。ですから、そういう形でそれぞれのエリアで、商店街が踏ん張っていけるようなリードはあると思うんですね。特にさっき申しました、福祉でまちづくりもしかりで、そういうものを活用して、活発化していけるような誘導と言いますか、アイデアを積極的に提案していくことが必要だろうし、それがなくなって活気がなくなるっていうだけじゃなくて、犯罪も多くなりさまざまな問題が起こるから、もう一度地場産業というか、そこでやってらっしゃる方をどう支援してくかということ进行全面に出すことが必要じゃないかと私は思います。

■会長

ありがとうございます。私の印象として、産業振興の前に6つのカテゴリがありますよね。各々みんな実は関連があるんですよ。だから、そこまで書き込むかどうかだと思うんですね。今までの産業振興って結構狭いんだけど、こうやって書いてみると全部の分野に産業があるじゃないですか。福祉産業もあるし。となると、ここの書きぶりだいぶ変わるんですよ。それはご判断いただいて、全部書けばいいっていうわけじゃないんだけど、いろんなことに関連があるのに、限定しているんですよ。本当に画期的な福祉をもしやるんだったら、それに係る産業もあるに決まっているとか

ね。だから、スポーツもしかりで、なんかやるんだったら、それに係る産業もあるだろうとか、書けそうな気がするんですね。だから、そこをお考えいただいて、もし良かったら書いていただけたら。

■事務局

はい。

■会長

他に。はい、お願いします。

■委員

先ほどあった中小企業の振興の商店街の支援のなんですけれども、うまく行っている商店街っていうのは、大企業さんと中小企業さんと商店街がバランスよくうまくいってる。やはりつぶれちゃう商店街って、大企業さんがボンと入ってきて、大商業地が出てきて、そこでポロボロっと崩れてくっというのすごいあって、そこをうまく調整して商店街と同じものを売らないとか売るとかその辺もまたあるかもしれないです。例えば、恵比寿でいうと、ガーデンプレイスからそのままずっと商店街に下りてくお祭りがあったりとか、イベントでうまく盛り上がるころって大企業と中小企業が非常にうまくいっているところ。若干関係が難しくなっているところは、ちょっと衰退気味になっているという状況が見えているのもあるので、こういったものをコーディネートする時に、大企業さんは中小企業や商店街の誰と会話するのか分からないところから始まり、いざイベント等をやってみたら、「何やってるんだ。」ということから始まり、すごい最初の印象が悪くなってしまっているところを、うまく行政が間に入るとかですね。大きい企業ができる時に、中小企業と一緒にやってく。それができると中小企業もとうまくいくかなと思います。

■会長

ありがとうございます。ちょっと時間的にはこのあと総合的な「渋谷らしさ」の検討が入るんですが、その前にカテゴリが1から7までありましたので、言い残していることがあるということがあれば、また言っておきたいということがあれば。よろしいですか。ここ2人で。

■委員

私はカテゴリ1の「教育、子育て、生涯学習」のところなんですけれども、「まちづくり」に関して渋谷の中には既に発信するものがたくさんあるんだなと話を伺いながら、子育ても教育も発信するものっていうよりは普遍的なものがすごく多い分野なんですよね。渋谷だから、何だからっていうのではなくて、人間が生活していく意味で大切なものなんですよね。このシートで言う「教育・子育て・生涯学習×渋谷らしい価値観」っていうのは、習う機会がどれだけ提供できるかっていうこと、その機会が乳幼児期であれば親子で一緒に運動しながらスポーツに触れるとか、そのことが学校教育の中でも活かされていくとか、生涯スポーツの場が提供できるというような形につながっていくんだと思うんですね。ですから、渋谷らしい価値観っていうのは、教育っていうのはこの価値観を受け入れていく営みなわけですから、子供の側からするとですね、いかに学ぶ場を提供できるかって

ということが1番なので、提供の仕方が難しいなと思うんですけど、ダイバーシティ教育っていうのはそれを意味しているのかも知れません。この渋谷らしい価値観ということでは、乳幼児期からずっと生涯学べる場づくりというのが大事なのかなと思いました。

■会長

ありがとうございました。

■委員

特に、「福祉×渋谷らしい価値観」っていうところですけども、横軸をはっきりしたほうがいいと思いますね。つまり、児童、障害、高齢、それを含めた地域包括システムをやるということがもう打ち出されているわけで、それぞれの分野で分担しても意味がないという議論がありますから、障害というだけじゃなくて例えば児童とかどうするのか。これは大きなテーマになる。ある意味で地域住民や家庭はどうするのかという議論に、介護者を含めた議論にも発展するので、その横軸をもう少しはっきり出す必要があると思います。近い将来、この議論になりますから。2番目は、圏域。どうエリアを決めていくのか、これもだいぶ大きなテーマなので、どうエリアを決めていくのかでだいぶ違いますから。そして、今問題になっているのは、渋谷はそうでなさそうなんだけど、医療圏域から民生委員の圏域やらが全部違ってまとまらないんですよね。そこをどうしていくかっていうのは、今かなりそれぞれのところで問題になっているので、圏域に基づいて、それに合った支援をしてくってという継ぎ木の議論なんですよ、毎回申し上げてたように。だから、それをしていかないと、ここのいわゆる中心のところと、やっぱり実際違いますのでね。そこをしっかりと議論していくことが重要だというふうに思いました。あと、これはスポーツとか等々に絡んでくるんですけども、絆ですね。交流とか、つながりの中でやっていかなくちやいけないんじゃないかと私は思っています。スポーツも応援する人もいれば、プレイする人もいれば、それを後押しする人もいれば、いろんな関わりがあるので、そういう形でイメージしていかないと、パラリンピックはその議論なんですよ。それを全面に出して、皆で協力をしてスポーツを支えましょう、それが交流でしょう。海外からいらした方にも、なんとか通訳のボランティアをやっていただけるようなことをしましょうっていう議論ですから、もう少し絆とつながりっていうこと、どちらも明確にしておくことも必要じゃないかと思います。3点です。

■会長

ありがとうございました。他は何か。はい、どうぞ。

■委員

産業振興のところで、渋谷らしさっていうとやっぱりハチ公だと思うんですね。ハチ公ブランドの商品ではハチ公ソースとかあるんですけども、ハチ公をキティちゃんのように世界に発信できるようなことができないだろうか。そうしたら、商店街のもなか屋さんにハチ公もなかがあったり、渋谷の最先端のところで金のハチ公があったりっていう、そういうものを売り出す。ハチ公のロイヤルティーがどうなっているか分からないし、ハチ公の飼い主の方は学者でいらっしゃるので印税

といったことに興味がないかも分からないですけども、ハチ公ブランドがあれば産業がどんどん盛り上がって、世界に通用するキティちゃんに変わるようなものになれないかなと思いました。

■会長

渋谷ブランドですね。

■委員

はい。

(4) 総合的な「渋谷らしさ」の検討

■会長

時間が迫っているので、次の議論に移ります。いろんなカテゴリーの話を伺ったんですけども、事務局のほうでこのカテゴリーの基本的方向性として今案を作成してるので、それにつきまして議題4の総合的な「渋谷らしさ」の検討についての説明をお願いいたします。

■事務局

はい。渋谷らしさは何かという視点がさまざま今までの審議の中に出てまいりました。それをどういうふうに考えていくのかというのが重要な点であろうと思っております。まず、区民へ分かりやすいものにするためにも重要でございますし、この辺はさまざまご議論いただきたいと思っております。これは、コンサルと一緒に作ってきていますので、コンサルのほうから説明をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

■事務局

(事務局より資料「渋谷区基本構想改定に向けた整理」の「4. 総合的な『渋谷らしさ』の検討」を説明)

■会長

ありがとうございました。いろんな議論を踏まえた形で、現時点での報告ですけど、渋谷らしさについてどう考えるかまとめてもらいました。皆さんのご意見お伺いします。よろしく申し上げます。

愛という言葉はないが、なんか愛が見えてくね。ここ、作る以上はわくわく感がないと駄目で、僕は見た人がわくわくするっていうのは欲しいなと思っていて、今回はぜひそれを実現したいと思ってます。わくわくっていうのは、読んでわくわくするような感じで。じゃあ、順番に。

■委員

今、「渋谷らしさ」をまとめていただいた中でもあったように、渋谷区が元来持っている価値に立脚するっていうこと、これは大事だなと思っていて、もちろんかわいっていう文化も、他の文化の部分も、渋谷が既に持っている宝っていうのはたくさんあると思うんですけど、せっかく産業振興のところの重点項目として、このバケーションレンタルのお話を出していただいたので少し紹介

します。今、結構議論の中心になっているエアビーアンドビーで、とにかく渋谷が1番多くて、海外の方も渋谷に泊まってみたいと思ってる方もたくさんいらっしゃいます。その方をどういうふうを受け入れていってかというところ、一つ大きな新しい産業を打ち出すっていう意味でも一つの軸になるのではないかなと思っていて、その時に産業をただ生み出すっていうよりは、それをまちづくりの一環としてやるっていうことがすごく大事で、そのまちづくりの一環というものが、地域の人の元々地場産業とおっしゃったんですけど、地域の商店街の銭湯だったり、おそば食べる場所だったり、病院だったりをもっと使っていただく。元々地域が持っているものに注目する契機になるっていうような形で、まちづくりの一環として外の人を受け入れていくような、民泊法が2018年に施行されますけれども、渋谷はそれに先駆けて新たな概念としてまちづくりの一環としてやるということが産業としても、オリジナルのまちづくりとしても打ち出していただければいいのではないかなと思っています。

■会長

ありがとうございました。じゃあ、お願いします。

■委員

この価値観の核要素のところ、わくわくですとか、楽しいですとか、そういうのももちろんそうなんですけれども、7つのカテゴリーのところ、重点項目として挙げていったことを本当にやって定着するためには、わくわくとかよりも、もう少し覚悟を持った表現のほうが私は個人的にはしっくりしていて、例えば、どんどん良くなることを恐れなくてとか、なんか体育会系かもしれないんですが、ただ、ちゃんとやることをやるぞということが伝わる表現もありなのかなと思いました。以上です。

■会長

ありがとうございました。では、お願いします。

■委員

スローガンのところで特にアイデアを持っているわけじゃないんですけども、例えばクールジャパンっていう言葉なんですけど、クールジャパンって自分たちの国で言っていることがクールじゃないっていう人がいたと思うんですけど、例えばクリエイティブな渋谷とか、そういうクリエイティブな渋谷って名乗った時点でクリエイティブじゃないんじゃないかなって思ったり、そういう意味ではスローガンはすごく大事だと思うので、渋谷らしい感じのやつを電通さんが考えていただければいいんじゃないかなと思ってのんですけど。

■会長

例えば渋谷かわいってどうなんですか。かわいすぎちゃう？

■委員

いや、かわいい渋谷ってもう 20 年くらい前のことで、今はどうなんですか。分からないですけど。体育会系とかそういう方向性のほうがいいんですかね。

■会長

頑張るぞみたいな。他にぜひご意見あれば。

■委員

多様性とか、ダイバーシティとかを考えると、お花から老人の方までを慈しむとかね。渋谷はそういう人をひっくるめてグイグイ引っ張っていくぞみたいなことが表現できないかなって思います。やっぱり生まれた時から死ぬまで渋谷区で頑張っていけるみたいなことを表現できればなと思いました。

■委員

体育会系の話が出たので、インパクトで言うそうですね、東京都もやってないし、日本もやってないし、それなのに渋谷ってこんなことやってるんだよってというインパクトがたぶん 1 番です。何がわくわくって、日本より渋谷っていう表現は喧嘩売ってるみたいかもしれないけど、渋谷ってこんなことやってるんだってその冊子の表紙にポンって出た時に、興味を湧かせたほうがいいと思う。やるよ、頑張るよっていうよりは、こんなことやっちゃう。多様性とかさっき言ったように、渋谷が最先端を行っているからこそ、小っちゃく日本より渋谷と書いて、なんだこれって思わすくらいのインパクトを与えて、何やってるの渋谷っていう表現で行くとちょっと面白いかなという感じです。

■会長

やっちゃうぞ、渋谷って。

■委員

やっちゃったのほうが面白いかもしれない、もしかしたら。やっちゃうぞっていうより、やっちゃったのほうが。

■委員

この中のキー単語でよく使われるのが育つとかね。自分たちが学んで育っていける。年とっても成長していけるんだと、チャレンジですよ。そういうような前向きで、自分たちの身にしていくというような、失敗してもまた渋谷に戻ってやっていけるとか、そういう議論が僕は必要だと思っていて、ヘルスプロモーションも全部教育なんですよね。自分でやらなかったら全然できないので、自分が学んでいけるような、そういう場があるというところに特徴を持って行ったほうがいいんじゃないかというふうに私は思います。チャレンジして、自分が育ち、育つということだと思います。

■会長

ありがとうございます。

■委員

今前向きな話が進んでいる中で、ちょっと空気の読めない意見になってしまうかと思うんですが、今日の議事を通して見ていて、今から言いたいことを話すとたぶん同じくらい時間かかっちゃうので、2点に絞ってお話させていただきます。

まず、総合的な「渋谷らしさ」の検討で、魅力と誇りの醸成ということがありますがけれども、商店街、もしくはコミュニティに所属する区民は誇りは持っています。ただ、それが10年前、20年前と同じレベルかというところではなくて、失いつつある。これとも関連してくるんですが、コミュニティの話とか、いろいろな団体とか、ネットワークを作るというお話が出てきていますけれども、おそらくすべてもうあるんですね。だけど、それが先ほどお話が出たとおり、縦や横の連携がとれてないので、情報交換ができてない。それからチームビルディングもできてないという状態です。1つお聞きしたいのは、この委員会での意見の集約としてのアウトプットのこの文章はいいんですけども、それと同時に渋谷区としてどれだけのリソースを使って、どれだけのフィールドワークを行ったのか。カタカナが多いからカタカナで言いましたけど、簡単に言いますと、どれだけの人材が区民の立場になって、意見聴取や実情の調査をしたかを知りたいんです。

■会長

まずそれ。

■事務局

はい。基本的には区民意識調査ベースになっておりまして、統計データについては審議会でもオープンしているところなんですけれども、そのあといわゆるパブリックコメントを実施したり、説明会なども開きますので、あらためてその場でさまざまな区民の皆さまのご意見はいただくというような流れになっております。

■委員

おそらく、本質的な区民の意見はセカンドピープル、サードピープルも含めてですけれども、何かの場を与えて、そこに話をしに来てください、アンケートに答えてくださいというものに答えてくれる方っていうのは、前向きな方なんですね。本質が隠れているのは、そうでない方々の部分なので、そこをどうやって意見をくみ取っていくかっていうことを全体として考えていかないと、戦略目標というか、目的を誤る可能性が大きいと思います。だから、そこはしっかりと時間があることではないですけれども、やっていかないとちょっと違ったものになってしまうかなという心配があります。以上です。

■会長

ありがとうございました。あと他に何かご意見ございますか。そろそろ時間も押してるのでもしよろしければここで終わりにして、言えなかったことはコメントで出していただいて、これからの事務局の作業に使ってもらいたいと思います。それでは、これから事務局から今後の進め方について

で説明していただけますか。

3. 質疑・次回に向けた連絡等

■事務局

はい。本日は活発な議論でご審議いただき、本当にありがとうございました。また、ちょっと時間が超過してしましまして、お詫びを申し上げたいと考えております。これまでの議論を踏まえまして、事務局でもう一度内容を検討していきたいと思っております。まず、このあとにまず小委員会で審議をしていただいて、また、皆さまのご意見をいただきたいと考えております。今後、長期基本計画に盛り込んでいく施策の並びも考えて行かなければいけないという状況もありますので、専門部会のほうを4月以降に開催してまいりたいと考えております。専門部会のメンバーについては、第3回審議会の時にお示ししたんですけれども、若干カテゴリが変わってまいりましたので、その部分を踏まえまして、会長のご指名という形でさせていただいているので、どういう専門部会に入っているか、またあらためてご提示いたします。

第6回の審議会ですが、まだ完全に調整ができていないのですが、4月26日火曜日ですけれども、15時から17時で調整をしているところでございます。これも正式に決定をいたしまして、皆さまにご案内してまいりますが、今その方向で調整させていただいているとご案内をさせていただきたいと存じます。事務局からは以上でございますが、これで年度末までの審議会は終了ですが、4月以降もぜひ皆さまの活発なご審議、ご協力をいただきたいと存じます。どうぞ、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

■会長

今日はどうもすみません。時間長くなりまして、ありがとうございました。また、次は4月かな。よろしく。ありがとうございました。

■事務局

どうもありがとうございました。